【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公表番号】特表2008-507509(P2008-507509A)
【公表日】平成20年3月13日(2008.3.13)
【年通号数】公開・登録公報2008-010
【出願番号】特願2007-522444(P2007-522444)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｃ 235/08 (2006.01)
Ａ２３Ｌ 1/22 (2006.01)
Ａ２３Ｌ 1/226 (2006.01)
Ａ６１Ｋ 47/18 (2006.01)
Ａ６１Ｋ 8/42 (2006.01)
Ａ６１Ｋ 8/55 (2006.01)
Ａ６１Ｑ 11/00 (2006.01)
Ａ６１Ｋ 47/24 (2006.01)
Ａ２４Ｂ 3/12 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｃ 235/08
Ａ２３Ｌ 1/22 Ｃ
Ａ２３Ｌ 1/226 Ｅ
Ａ６１Ｋ 47/18
Ａ６１Ｋ 8/42
Ａ６１Ｋ 8/55
Ａ６１Ｑ 11/00
Ａ６１Ｋ 47/24
Ａ２４Ｂ 3/12 Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成20年3月7日(2008.3.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ．組成物の質量に対して０～２０％の糖質甘味料、及び／又は組成物の質量に対して０～３％の人工甘味料を任意で含む、少なくとも０．１質量％の１又は２以上のフレーバー物質と、
ｂ．化学式（Ｉ）の物質、
（Ｉ）$CH_2OH-(CHOH)_4-CO-NH-CH_2-CH_2-X$
（式中、Ｘは、－ＯＨ、－Ｏ（ＣＯ）Ｒ、$-OPO_3H_2$、$-PO_3H_2$、$-OSO_3H$、又は$-SO_3H$であり、Ｒは、少なくとも１つのカルボン酸基を含むC_2-C_{10}基である）
及びその食用塩からなる群から選択される、０．００１～９５質量％の１又は２以上の風味改良物質、とを含むフレーバー組成物であり、
前記フレーバー組成物がＮ－グルコニルエタノールアミン又はその塩を含む場合の風味改良物質とフレーバー物質との質量比が５０：１未満であることを特徴とする、フレーバ

ー組成物。
【請求項２】
風味改良物質とフレーバー物質との質量比が１：１００から１０：１の範囲内であることを特徴とする、請求項１記載のフレーバー組成物。
【請求項３】
組成物が、Ｎ－グルコニルエタノールアミンと人工甘味料とを含む場合に、Ｎ－グルコニルエタノールアミンと人工甘味料との質量比が、５０：１未満、好ましくは２０：１未満であることを特徴とする、請求項１又は２記載のフレーバー組成物。
【請求項４】
風味改良物質を０．０１～９０質量％、好ましくは０．１～２５質量％の量で含むことを特徴とする、請求項１～３のいずれか記載のフレーバー組成物。
【請求項５】
１～９５質量％のフレーバー物質を含むことを特徴とする、請求項１～４のいずれか記載のフレーバー組成物。
【請求項６】
Ｘが、－ＯＨ、－ＯＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＯＳＯ$_3$Ｈ、又は－ＳＯ$_3$Ｈを表わすことを特徴とする、請求項１～５のいずれか記載のフレーバー組成物。
【請求項７】
化学式（Ｉ）で表される物質、
（Ｉ）ＣＨ$_2$ＯＨ－（ＣＨＯＨ）$_4$－ＣＯ－ＮＨ－ＣＨ$_2$－ＣＨ$_2$－Ｘ
（式中、Ｘは、－Ｏ（ＣＯ）Ｒ、－ＯＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＯＳＯ$_3$Ｈ、又は－ＳＯ$_3$Ｈであり、Ｒは少なくとも１つのカルボン酸基を含むＣ$_2$－Ｃ$_{10}$基である）、及びその食用塩。
【請求項８】
Ｘが、－ＯＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＰＯ$_3$Ｈ$_2$、－ＯＳＯ$_3$Ｈ、又は－ＳＯ$_3$Ｈを表わすことを特徴とする、請求項７記載の物質。
【請求項９】
物質が、Ｎ－グルコニルエタノールアミンリン酸又はその食用塩であることを特徴とする、請求項８記載の物質。
【請求項１０】
食料品、飲料、医薬品、タバコ製品、及びオーラルケア製品の風味を改良するための、請求項１に定義される、１又は２以上の風味改良物質の使用。
【請求項１１】
食料品、飲料、医薬品、タバコ製品、及びオーラルケア製品の風味を改良するための、請求項７に定義される、１又は２以上の風味改良物質の使用。
【請求項１２】
食料品、飲料、医薬品、タバコ製品、及びオーラルケア製品の風味を改良するための方法で、化学式（Ｉ）で表される物質及びその食用塩からなる群より選択される１又は２以上の風味改良物質を、０．１～１０，０００ｐｐｍ、好ましくは１～５，０００ｐｐｍの間の量で前記製品に添加することを含む方法。
【請求項１３】
１又は２以上の請求項１に定義される風味改良物質を、０．１～１０，０００ｐｐｍ、好ましくは１～５，０００ｐｐｍの間の量を含むことを特徴とする、食料品、飲料、医薬品、タバコ製品、及びオーラルケア製品からなる群より選択される製品。
【請求項１４】
１又は２以上のフレーバー物質を、５～２０，０００ｐｐｍの量でさらに含み、風味改良物質とフレーバー物質との質量比が５０：１未満であることを特徴とする、請求項１３記載の製品。
【請求項１５】
製品が、Ｎ－グルコニルエタノールアミン又はその食用塩を含む場合に、風味改良物質

と糖質甘味料との質量比が、１：１を超えることなく、風味改良物質と人工甘味料との質量比が、５０：１未満であることを特徴とする、甘味料をさらに含む請求項１３又は１４記載の製品。